

創価大学  
学長  
馬場善久



## 開学以来続く、「国際交流」と「学生第一」の理念を具現化したラーニング・コモンズが今秋誕生

**本**学は開学以来、国際交流に力を注いできました。海外の交流協

定校は46カ国・地域の141大学。海外修学者数は現在、年間700人超ですが、文部科学省の「グローバル人材育成推進事業」に採択されたことで、2016年には1000人まで増やす予定です。少なくとも5割を超す学生が、在学中、海外で学ぶ機会をもてるようにしたいと考えています。

全学部で英語による専門教育が受けられるプログラムを用意しているほか、TOEIC®テスト受験補助を含む、数多くの語学学習支援、留学支援制度も設けています。「国際社会で活躍したい」という志ある学生を支援するため、4年前に設置したGCP(グロ

ーバル・シティズンシップ・プログラムの学生を中心に、G8ユースサミットやハーバード大学での学生会議など国際的な活動に参加する学生も増えました。私自身、最初の海外体験がその後の自分の人生を豊かなものにしてくれました。さまざまな人々と接するなか、多面性や柔軟性を養ってほしいと思います。

本学はまた、「学生第二」を基本理念にしました。ラーナー・センターⅡ学習者中心という言葉を具現化したのが9月に完成したばかりの中央教育棟です。なかでも、2000平方メートルにおよぶ総合学習支援センター、SPACEは、学生が互いに学びをサポートしあうラーニング・コモンズとしての機能を備えた広大な空間です。ICT

や協同学習環境が整備されたスペースのほか、初・中級者向けの語学ラウンジ、自習室などが整っています。ネイティブスピーカーとの会話を通じて語学力をアップさせたり、友人と自由に語りあったり、教職員と相談したりなど、活用の仕方は人それぞれ。教職員の働きかけ、あるいは学生同士のかかわりのなかで学びへのモチベーションが上がることでしょう。こうした教育環境は自分を成長させるための絶好の場です。今までの延長線上で成長するのではなく、大いに自分を変えてほしいと思います。

私は「不連続の成長」の重要性を実感しています。語学などは典型ですが、それまで停滞していたのに、あるとき突然、成績が伸びる瞬間があります。大切なのは、その瞬間が訪れるまであきらめずに努力を続けること。高校生に求めたいのは、努力の習慣であり、挑戦することで何かを得たという体験です。そこで培ったものは、大学、さらには社会のなかで必ず生かされます。大学入学時点での個々の学力差など大した差はありません。そこからどれだけ成長するかが本場の勝負です。努力をいとわない、チャレンジ精神をもった高校生に期待しています。

【学長プロフィール】 ばば・よしひさ ●1953年生まれ。創価大学経済学部卒業。カリフォルニア大学サンディエゴ校経済学研究科博士課程修了。Ph.D.取得。創価大学経済学部講師、助教授を経て教授。教務部長、副学長を経て13年より現職。専門は計量経済学。

【大学プロフィール】 1971年創立。経済学部、経営学部、法学部、文学部、教育学部、工学部、看護学部、国際教養学部(2014年4月開設)